

安全データシート

作成日 2006年 7月 1日
改訂日 2016年 7月14日

1.製品及び会社情報

製 品 名	カチオンベース QQ-0
	A材(混和液)は1～4ページに記載 B材(パウダー)は5～8ページに記載
会 社 名	オバナヤ・セメントックス株式会社
住 所	三重県いなべ市北勢町東村 1339
電 話 番 号	0594-72-6488
F A X 番 号	0594-72-6253
担 当 部 門	製造部 工場管理課
整 理 番 号	M2252

2.危険有害性の要約

GHS分類

急性毒性

経 口:	分類できない
経 皮:	分類できない
吸 入 (ガ ス):	分類対象外
吸 入 (蒸 気):	分類できない
吸入(粉塵、ミスト):	分類できない
皮膚腐食性/刺激性:	区分2
眼に対する重篤な損傷性/ 刺激性:	区分2

感作性

呼 吸 器:	分類できない
皮 膚:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発 がん 性:	分類できない
生 殖 毒 性:	分類できない

特定標的臓器/

全身毒性(単回暴露):	分類できない
特定標的臓器/ 全身毒性(反復暴露):	分類できない
吸引性呼吸器有害性:	分類できない

水生環境

急 性 有 毒 性:	区分2
慢 性 有 毒 性:	区分2
オゾン層への有害性:	分類できない

GHSラベル要素



注 意 喚 起 語:	警告
危 険 有 害 性 情 報:	皮膚刺激 強い眼刺激 水生生物に毒性 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注 意 書 き: <<安全対策>>

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用し飛散させないように取扱うこと。
取扱い後は、手、顔をよく洗うこと。

環境への放出を避けること。

《応急》

- 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
- 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 皮膚刺激を生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
- 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
- 気分が悪い時は、医師の手当てを受けること。
- 漏出物を回収すること。

《廃棄》

内容物/容器を国/都道府県/市町村の規制に従って廃棄すること。

3.組成・成分情報

単一製品・混合物の区分: 混合物
 化学名又は一般名: ブタジエン・スチレン系共重合物(ラテックス)
 化審法及び安衛法による成分表示:
 濃度又は濃度範囲:

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	CASNo.	安衛法	PRTR法
ポリマー	約 20%	非公開	非公開	非公開

法規制対象成分:

成分	安衛法	PRTR法
ポリマー	表示対象物/通知対象物に該当しない	指定化学物質に該当しない

GHS 分類に寄与する不純物
 及び安定化添加物: 特になし

4.応急措置

- 吸入した場合: ラテックスは水を分散媒とした揮発性の低い水性液体で吸入の可能性は少ない。もし気分が悪くなった時は、空気の清浄な場所に移り安静にする。
- 皮膚に付着した場合: 直ちに接触部位を流水で15分以上充分洗浄する。
- 眼に入った場合: 直ちに流水で15分以上充分洗浄し、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合: 多量の水を飲ませ吐かせる。その後、医師の手当てを受ける。
- 最も重要な徴候及び症状: 特になし

5.火災時の措置

- 消火剤: 水、炭酸ガス、ドライケミカル等一般消火剤
- 使ってはならない消火剤: 特になし
- 特有の消火方法: 製品乾燥物に着火した場合は、注水・水噴霧・ドライケミカル等一般消火剤を使用し消火作業は可能な限り風上から行う。
- 消火を行なう者の保護: 適切な保護具(耐熱性着衣など)を着用する。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項/保護具及び緊急時措置: 作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、長靴、ゴーグル等)を着用する。
- 環境に対する注意事項: 河川・湖沼等へ流入すると少量でも広範囲にわたり白濁させる。河川・湖沼等公共水域及び下水への流入は絶対に避ける。流入した河川から飲料水を取水している場合、流れ去るまで取水を中止してもらう。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材: 少量の場合、乾燥砂・オガクズ・ウエス等に吸収させ回収する。

多量の場合、まず土嚢や周囲にある土砂等で拡散を防止し、塩化カルシウムで凝集固化させて回収する。

<参考: 塩化カルシウムによる凝集固化の方法>

約10%の塩化カルシウム水溶液を作り、漏出したラテックスに散布し攪拌する。

散布量が少ないと凝集しないことがあるので、その場合は散布量を増やす。

緊急を要する場合は、塩化カルシウムを固形のまま散布しても凝集固化させることが出来る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意: 容器から漏出させないようにし、保護手袋・保護眼鏡を着用する。

保管上の注意: 禁水性物質と同一場所での保管は避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策: 出来るだけ密閉された装置・機器を使用する。

取扱い場所は換気を良くする。

取扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設置することが望ましい。

管理濃度及び許容濃度: 設定されていない

保護具

眼の保護具: 保護眼鏡を使用する。ガラス又は樹脂製のゴーグルタイプが良い。

手の保護具: 保護手袋を使用する。ゴム又は樹脂製が望ましい。

呼吸器の保護具: 必要に応じて保護マスクを使用する。

皮膚及び身体の保護具: 保護衣を着用する。厚手の布製で長袖、長ズボンを着用することが望ましい。

適切な衛生対策: 作業後、手をよく洗い、うがいをしてから喫煙、飲食等をする。

9. 物理的及び化学的性質

形状: 液体

色: 乳白色

臭い(臭いの閾値): 殆どしない

pH: 約7.5

融点 / 凝固点: 0°C

沸点: 100°C

沸騰範囲: 該当しない

引火点: 該当しない

自然発火温度(発火点): 該当しない

燃焼又は爆発範囲(下限): 該当しない

燃焼又は爆発範囲(上限): 該当しない

蒸気圧: 該当しない

比重(相対密度): 1.0g/cm³

溶解性: 水と任意の比率で混合分散する

分解温度: 該当しない

その他のデータ: 特になし

10. 安定性・反応性

安定性: 通常の保管・取扱い条件で安定。

危険有害反応可能性: 通常の保管・取扱い条件で安定。

避けるべき条件: 禁水性物質との同一場所での保管は避ける。

混触危険物質: 特になし

危険有害な分解生成物: 特になし

11.有害性情報

急性毒性:	データなし
皮膚腐食性/刺激性:	データなし。放置すればカブレや炎症を起こすおそれがある。
眼に対する重篤な損傷性/ 刺激性:	データなし。粘膜等に炎症を起こすおそれがある。
呼吸器感作性:	データなし
皮膚感作性:	データなし
生殖細胞変異原性:	データなし
発がん性:	データなし
生殖毒性:	データなし
特定標的臓器/ 全身毒性(単回暴露):	データなし
特定標的臓器/ 全身毒性(反復暴露):	データなし
吸引性呼吸器有害性:	データなし

12.環境影響情報

水生環境有害性:	データなし
水生環境有害性(急性):	類似製品の評価結果に準じて分類した。
水生環境有害性(長期間):	類似製品の評価結果に準じて分類した。
残留性/分解性:	データなし
生体蓄積性:	データなし
土壌中の移動性:	データなし
オゾン層への有害性:	データなし
他の有害影響:	知見のない項目が多いので、一般環境内への廃棄は行なわない。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物:	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする。 ラテックスをそのままの状態では絶対に廃棄しない。 ラテックスをそのままの状態一般環境内に廃棄すると、河川・湖沼・地下水等を汚染する可能性がある。塩化カルシウムで凝集固化させた後焼却する。
汚染容器:	内容物を完全に除去した後に都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする

14.輸送上の注意

国際規制:	該当しない。
国内規制:	該当しない。
輸送又は輸送手段に関する 特定の安全対策及び条件:	容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転倒、落下、容器破損のないよう積み荷崩れ防止を確実にを行う

15.適用法令

適用法令:	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
-------	------------------

1.製品及び会社情報

製 品 名 カチオンベース QQ-0 B材(パウダー)

2.危険有害性の要約

GHS分類

急性毒性

経 口: 分類できない
 経 皮: 分類できない
 吸 入 (ガ ス): 分類対象外
 吸 入 (蒸 気): 分類対象外
 吸 入 (粉 塵): 分類できない
 皮膚腐食性/刺激性: 区分1
 眼に対する重篤な損傷性/
 刺激性: 区分1

感作性

呼 吸 器: 分類できない
 皮 膚: 区分1
 生殖細胞変異原性: 分類できない
 発 がん 性: 区分1
 生 殖 毒 性: 分類できない
 特定標的臓器/
 全身毒性(単回暴露): 区分1(呼吸器系)
 特定標的臓器/
 全身毒性(反復暴露): 区分1(呼吸器系、腎臓)
 吸引性呼吸器有害性: 分類できない
 オゾン層への有害性: 分類できない

GHSラベル要素



注 意 喚 起 語: 危険
 危 険 有 害 性 情 報: 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 発がんのおそれ
 臓器(呼吸器系)の障害
 長期又は反復暴露による臓器(呼吸器系、腎臓)の障害
 多量に又は長期に渡り吸入すると肺に蓄積し、じん肺になるおそれがある

注 意 書 き: <<安全対策>>
 粉じんを吸入しないこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用し飛散させないように取扱うこと。
 取扱い後は、手、顔をよく洗うこと。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 屋内で取扱う場合は十分な換気を行なうこと。
 <<応急>>
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚(又は髪)に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。

暴露又はその懸念がある時、医師の手当を受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

《保管》

施錠して保管すること。

《廃棄》

内容物／容器を国／都道府県／市町村の規制に従って廃棄すること。

3.組成・成分情報

単一製品・混合物の区分: 混合物
化学名または一般名: ポルトランドセメント、珪砂、その他
化審法及び安衛法による
成分表示:

成分	含有量	官報公示整理No.	CASNo.	安衛法	PRTR法
シリカ	約50%	1-548	14808-60-7	通知対象物	該当しない
酸化カルシウム	~1%	1-189	1305-78-8	通知対象物	該当しない

※ アスベスト類の物質は含んでいない。

4.応急措置

吸入した場合: 直ちに空気の新鮮な場所に移し、水または温水でうがいをする。症状の変化に応じて医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合: 多量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合は医師の手当てを受けること。

眼に入った場合: 直ちに多量の清浄な水で十分に洗浄し、出来るだけ速く医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 多量の水を飲ませて吐かせた後、直ちに医師の手当てを受けること。

5.火災時の措置

消火剤: 製品自体は不燃物質である。周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項/
保護具及び緊急時措置: 作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
環境に対する注意事項: 飛散しないよう注意し、掃除機等で吸引し回収する。
漏出した製品や洗浄水が河川等へ排出され、環境に影響を及ぼさないように注意する。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意: 取扱いは、出来るだけ密閉された装置、機器を使用し、局所排気装置を設置するなど換気の良い場所で行う。作業は出来るだけ風上から行なう。取扱い時には防塵マスク・保護眼鏡等適切な保護具を着用する。水と接触するとアルカリ性(pH12~13)を呈し、目、呼吸器及び継続的な皮膚接触により刺激する場合がある。

保管上の注意: 湿気、直射日光を避け、屋内でパレット上などに置くなど床面より離れた状態で保管する。

8.暴露防止及び保護措置

設備対策: 屋内で作業する場合は、集塵装置または換気装置を備え、粉塵濃度が許容量以下になるようにする。
取扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設置することが望ましい。

管理濃度: 労働安全衛生法・作業環境評価基準 3.0 mg/m³
許容濃度: 日本産業衛生学会(2008年) 第2種粉塵
吸入性粉塵 1mg/m³
総粉塵 4mg/m³
吸入性結晶質シリカ 0.03 mg/m³

保護具

- 眼の保護具：ゴーグルタイプの保護眼鏡
 手の保護具：ゴム又は樹脂製の保護手袋
 呼吸器の保護具：防塵マスク
 皮膚及び身体の保護具：皮膚を直接曝させないような長袖、長ズボンの保護衣を着用することが望ましい。
 保護長靴、エプロン

9.物理的及び化学的性質

- 形 状： 粉体
 色： 灰色
 臭い(臭いの閾値)： 無臭
 p H： 12～13(水と接触した場合)
 物理的状态が変化する
 特定の温度/温度範囲： データなし
 溶解性： データなし

10.安定性・反応性

- 安定性： 通常の保管、取扱い条件で安定。
 反応性： 水と反応して固化する。
 危険有害な分解生成物： 該当しない

11.有害性情報

- 急性毒性： データなし
 急性毒性・経皮： データなし
 皮膚腐食性/刺激性
 及び眼に対する重篤な
 損傷性/刺激性： 水と接触するとアルカリ性(pH12～13)を呈し、眼、鼻、皮膚に対し刺激性があり、眼の角膜、鼻の内部組織、皮膚に炎症を起こす可能性がある。
 呼吸器感受性/皮膚感受性： 極微量のクロム化合物が含まれており、六価クロムに対して過敏である場合にアレルギーが起こる可能性がある。
 生殖細胞変異原性： 区分外
 発がん： IARC68(1997)は1、NTPはK、産衛学会勧告は1、に分類しており、区分1とした。
 発がんのおそれ(IARCグループ：人に対して発がん性がある)。
 生殖毒性： データなし
 特定標的臓器
 /全身毒性(単回暴露)： ヒトにおいて短期ばく露で吸入濃度が高い場合は呼吸器系に影響を及ぼすとの記述(IARC68(1997))がある。IARC68(1997)はPriority1文書であるため、区分1(呼吸器系)とした。
 呼吸器系の障害
 特定標的臓器
 /全身毒性(反復暴露)： Priority1文書に、ヒトにおいて呼吸器系、腎臓に影響を及ぼすとの記述(IARC68(1997))があり、区分1(呼吸器系、腎臓)とした。
 長期又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓の障害
 吸引性呼吸器有害性： データなし

12.環境影響情報

- 生態毒性： 接触水はアルカリ性を呈するので、環境に影響を及ぼさないように注意する。
 残留性/分解性： データなし
 生体蓄積性： データなし
 土壌中の移動性： データなし
 オゾン層への有害性： データなし

13.廃棄上の注意

- 残余廃棄物： 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
洗浄水等は、凝集沈殿処理により洗浄してから排出すること。
- 汚染容器： 内容物を完全に除去した後に処分する。
都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
-

14.輸送上の注意

- 国際規制： 該当しない。
- 国内規制： 該当しない。
- 輸送又は輸送手段に関する
特定の安全対策及び条件： 粉じんの立たない方法で輸送する。
破袋、損傷、容器からの漏れ、荷崩れ等の防止を確実に行う。
湿気、水漏れに注意する。
-

15.適用法令

- 適用法令： 労働安全衛生法(粉じん障害防止規則)
労働安全衛生法第57条の2第1項(通知対象物質 酸化カルシウム)
労働安全衛生法第57条の2、施行令第18条の2別表第9(通知対象物質 シリカ)
じん肺法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
-

16.その他情報

本データシートは作成時または改訂時において、製品及びその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱い情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。
